

◎特集 1 / 「児童生徒キャリア育成推進事業」について

◎特集 2 / 「地域産業の担い手育成プロジェクト」(クラフトマン 21) について

- 地域全体で学校を支援する体制づくりを推進する「やまなし学校応援団育成事業」
- ～子どもたちに確かな学力を！～確かな学力ステップアップ事業
- 発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業グランドモデル地域(甲府市)の取組み
- 世界遺産アンコールワット展 アジアの大地に咲いた神々の宇宙
- 平成 21 年度新体力テスト・健康実態調査結果の概要
- ミュージアム甲斐・ネットワーク / 大月市郷土資料館、甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
- らくがき 県立北杜高等学校 千野 政寿教諭
県立ふじざくら支援学校 渡邊 真奈美教諭
- 春の企画展「山崎方代展 右左口はわが帰る村」
- 学校紹介 / 北杜市立白州小学校、県立農林高等学校
- 総合教育センター情報 / 学校に寄り添い支援する研究を目指して
- 新教育委員長が就任
- 県立図書館 / 「レファレンスの道具箱 山梨の地図について調べる」
- 山梨の文化財 / 県指定有形文化財(建造物) 山梨県庁舎別館(旧本館) 及び県議会議事堂
- 主な行事予定



「児童生徒キャリア育成推進事業」について

少子高齢化社会の進行、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化が進む中、子どもたちの進路をめぐる環境は大きく変化しています。また、教育を取り巻く環境も大きく変化してきており、これら社会と教育の動向から若者をめぐる様々な課題が浮かび上がっています。一方、若者の勤労観、職業観の未成熟さや社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質・能力の不十分さなどについても指摘されています。

県教育委員会では、平成二十一年二月に『やまなしの教育振興プラン』を策定し、その中で「夢をはぐくみ、自立して生きていく力を培う」「体系的なキャリア教育の推進」を重点施策としました。子どもたちに望ましい勤労観・職業観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解させ、主体的に進路を選択する能力や態度を育てることを目的とした「キャリア教育」に取り組むことは、「生きる力」をはぐくむことにもつながります。

県教育委員会では、このような振興プランの理念を受け、平成二十一年度から三か年の計画により、次のような趣旨と内容で、「児童生徒キャリア育成推進事業」に取り組んでいます。

※キャリア教育とは

児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくため

に必要な意欲・態度や能力を育てる教育、または児童生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な能力等を育てる教育

◎趣旨

児童生徒が「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、社会人・職業人として自立していくことができるようにするため、これまで行われてきた小・中・高等学校の教育活動を、キャリア教育の視点から見直し、十二年間を見通したキャリア教育の指導体制を整備する。

◎事業の内容

①キャリア教育推進会議の設置・推進会議の役割

○小・中・高等学校における一貫したキャリア教育推進のための在り方について検討する。

○『キャリア教育推進の手引き』の企画及び監修を行う。

②『キャリア教育推進の手引き』作成

小・中・高等学校で、キャリア教育を推進するために必要な指針となる全体計画や、年間指導計画及び授業事例を載せた冊子をキャリア教育推進会議作業部会において作成する。

③キャリアアドバイザー養成研修の実施

教員のキャリア教育に関する理解や認識を高めるとともに、指導計画を作成する力や児童生徒を理解し、その変容を的確にとらえて発達を支援する「キャリア・カウンセリング」の能力をもった教員をキャリアアドバイザーとして養成する。

研修は公立の小・中・高・特別支援学校の各校から一名ずつの受講者を決定し、三年間ですべての学校に養成研修を修了した中核教員を配置していく。

④研究協力校による調査研究

○研究協力校
押原小学校、押原中学校、甲府昭和高等学校を指定。

○研究内容

キャリア教育の視点で学校の教育活動を見直すとともに、小・中・高等学校における一貫したキャリア教育の全体計画や指導計画を作成し、体系的な指導体制を整備する。また、家庭、地域、企業などの関係諸機関と連携・協力した体験活動の在り方を研究する。

これらの事業から、キャリアアドバイザー養成研修と研究協力校の研究活動について実施された内容を紹介します。

■キャリアアドバイザー養成研修

○一日目（六月十六日）

キャリア教育の第一人者で国立教育政策研究所総括研究官の藤田晃之先生を講師に迎え、「キャリア教育の意義、現状と課題について」と題し、キャリア教育の理論研修を行いました。また、各校のキャリア教育の現状と課題を話し合いました。

○二日目（七月七日）

午前は、キャリア教育の先進校である押原小学校、勝沼中学校、葦崎工業高等学校からキャリア教育の実践と課題について、事例発表がありました。また、「企業と連携した人材育成について」と題し、ニスカ株式会社相談役の小林隆二氏から講演をいただきました。

午後からは、立教大学特任教授の渡辺三枝子先生とキャリアカウンセラーの内田雅顕先生、橋本幸晴先生を講師としてキャリア・カウンセリングの理論と実践について、演習を交えながら学習しました。



キャリア・カウンセリング演習

○三日目（八月二十日）

キャリア教育における学習プログラムについて理論研修をしたあと、班ごとに、体験活動を中心にした学習プログラムの作成と発表を行いました。

受講アンケートでは、多くの方から「有意義だった」という回答をいただきました。

■研究協力校の研究内容

◇押原小学校

【研究主題】「学びを紡ぎ、自分をひらく力を育てる小学校キャリア教育」

押原小学校では、子どもたちの社会的自立への基礎を育み、小学校段階のキャリア教育を実現する教育課程のあり方を研究しています。今年度は、教職員のキャリア教育に対する共通理解を図るため、理論研修を行ったり、キャリア教育と道徳との連携を図る研究を進めてきました。

◇押原中学校

【研究主題】「自ら進んで学び、全力を尽くしてやり抜き、志を育てる生徒の育成」～人間関係形成能力と意思決定能力を高めるための取り組みを通して～

押原中学校では、生徒の現状を把握する中で、人間関係形成能力や意思決定能力を身につけるためには、どのような指導法や手だてがあるか研究しています。今年度は、職業講話や職場体験などの体験活動を中心に、実践研究を進めてきました。

◇甲府昭和高等学校

【研究主題】「小・中・高の連携を通じた自己の能力と可能性を最大限に生かすための勤労観・職業観の育成」

甲府昭和高等学校では、普通科進学校として、自己の目標を主体的に設定し、進路研究を通じて、適切な勤労観・職業観をもつとともに、意欲的に学習に取り組む生徒をどう育てるか研究しています。今年度は、進路講演会や企業見学などを中心に、実践研究を進めてきました。



押原小学校1年生社会科見学

◎各学校でキャリア教育の研究実践を

今年度刊行される『キャリア教育推進の手引き』等を参考に、各学校でキャリア教育の研究実践を進めてください。

キャリア教育を進めるには、①校内研究でキャリア教育についての共通理解を図り推進体制を整備する、②キャリア教育の視点で教育課程を見直し、改善を図る、③体験活動や各教科等との連携を図った授業実践を行う、④家庭や地域等との連携を図る、⑤PDCAサイクルによる自校のキャリア教育についての評価を実施し改善を図る、などが考えられます。

今年度の成果を活かし、平成二十二年度の事業内容を、より充実したものにしていきます。

「地域産業の担い手育成プロジェクト」（クラフトマン21）について

— 高校教育課 —

【概要】

平成十九年度から三年間、文部科学省の「地域産業の担い手育成プロジェクト」と経済産業省（関東経済産業局）の「中小企業ものづくり人材育成事業（工業高校実践教育導入事業）」の連携プロジェクトの研究指定を受け、本県のリーディング産業である、半導体製造装置、産業用ロボットに係る機械加工技術、計測技術、金属材料の基礎知識を習得するために、県内工業高等学校（葦崎工業、甲府工業、谷村工業）と地元企業が連携を図り、

- ① 実践的技術を習得する生徒の企業実習
- ② 高度熟練技術者による実践的授業
- ③ 教員の高度技術習得を目標とした企業研修
- ④ 企業との共同研究

等に取り組みました。研究過程ではP D C Aサイクル型問題解決能力の醸成と地域産業を担う実践的技術を有する人材育成に努めました。

【背景】

○産業界の現状と課題

県内総生産の四分の一を占める製造業で、機械電子産業の生産額はその内の約七割を占めます。この分野での団塊世代の大量退職や若者のものづくり離れにより、本県製造業では技術系人材の確保が、喫緊の課題になっております。

○産業界のニーズ

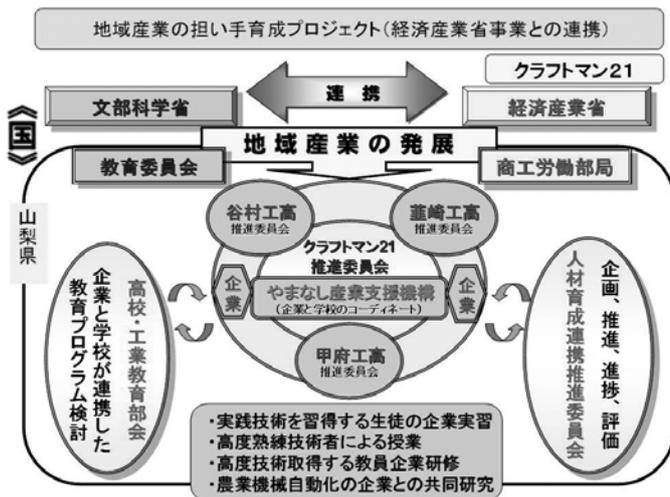
図面の読み書きができることや材料の基礎知識、旋盤、C A D / C A M等、幅広い知識・技術を有していることが求められています。

○工業高等学校の現状と課題

時代や企業ニーズにあった専門教育が不足気味で、専門学校が地域における役割をあまり果たしていない傾向があります。

○工業高等学校のニーズ

施設・設備が古いことや産業界が求める人材像との技術的格差を指摘されることが多く、企業連携による技術指導の必要性があります。現状と課題から、概要図のクラフトマン21推進委員会が中心となり事業執行を行いました。



概要図

【目的】

○工業高校生に半導体製造装置・産業用ロボットに係わる基礎的技術の習得のための教育プログラムの開発

○工業高等学校と企業が連携して問題解決的な人材育成とともに地元企業の担い手育成

○研究成果を県内専門高校へ普及

【目標】

- 企業実習等への参加生徒数 延べ九百名
- 企業の技術研修参加教員数 延べ六十名
- 本事業への参画企業数 百社
- 工高生技能検定合格者（事業前比） 二十%増
- 教員の資格取得者数 延べ二十名
- 工業高校生が県内企業就職率 九十五%
- 事業参加生徒の県内製造業就職率 八十五%

【実践研究】

各校においては、教育課程の進度に合わせ、学習内容の精選や学習指導の方法・評価の見直しを行い、また企業側においては生徒の技術レベルに応じた実習内容を検討し、教育現場では十分指導のできない面や新しい技術を伸長するために連携事業を行いました。

①生徒の企業実習

工業高校生が地元の企業現場の実情を認識するとともに、学校では体験のできない実践的実習を行いました。また企業の技術者による工業管理技術やシステム技術に関する講義も受講するプログラムになっていきます。学校では得られない実践的な技術・技能の習得や向上が見られました。

平成二十一年度は過去二年間で標準化した企業実習の内容の検証を行い、P D C Aサイクルに基づく問題解決の意識付けの評価を行いました。

企業見学は、一年生を中心に企業の製造現場を見学し、ものづくりについての理解を深めました。

（※例）

・実施校 葦崎工業高校二年生・電子機械科・

システム工学科（七十名）

・実施時期 六月～十一月（四日間）

・協力企業 ㈱天鳥・㈱ミラプロ・㈱池田精機製

作所・㈱東日製作所・㈱山本製作所

・望月鉄工㈱・富

士工器㈱山梨工

場・葦崎興産㈱・

㈱茂呂製作所・

キッツ㈱長坂工

場・中星工業㈱等

・実施内容 MC操

作、半自動溶接、

三次元測 定器等

の実習

・教育課程上の位置

づけ 企業実習、

機械実習



工作機械操作

②技術者等による学校での実践的指導

工業高校生の技能向上と実践力の育成を目的とした技術者による技能検定講習会の実施や、卓越した高度熟練工の配置等により、実践的な教育プログラムの開発を進めました。

平成二十一年度は、教員と技術者によるティームティーチングの在り方について重点的に研究し、指導案の完成度を高め、教材コンテンツの作成とデータベース化を図り、技術者によるものづくり指導体制の強化に努めました。

（※例）

・実施校 甲府工業高校三年生・電気科・（十二名）

・実施時期 六月～十一月（十二日間）

・協力企業 ㈱アイメック

・実施内容 シーケンス制御による「ベット自動世話機」「チャーハン自動調理器」の開発

・教育課程上の位置づけ 企業実習、課題研究

③教員の高度技術習得

工業技術教育を担う教員において技術スキルや

指導力の向上及び企業理解を目的とし、積極的に実践的技術研修を実施しました。技術者による学校での出張講習会、教員が企業や公的研究機関へ出向く等、活発な交流が行われました。毎年実施された溶接指導員養成研修会は、各校の溶接実習の質を高め、平成二十一年度は他県に先駆け「第一回山梨県高校生溶接競技会」を一般社会人大会と同時に開催するに至りました。



溶接実習

④企業と高等学校の共同研究

農業分野に工業技術を生かせないか考え、トラクターの整備・修理、そして遠隔操作の構築を企業共同研究のテーマとして設定しました。遠隔操作ではメカニカルな部分だけでなく、電気電子分野の学習等、実践的な研究内容に取り組み、多くのマスコミの取材を受けながら農場での機械耕作の実証実験ができました。

⑤その他の取り組み

（工業高校生によるものづくり出前授業）

小中学校の児童生徒、教員等にもものづくりの面白さのアンウンスや工業高校生が講師になることによるスキルアップをねらいとして、小中学校を訪問し出前実験授業等に取り組みました。また高校へ招待しての公開授業や文化祭での公開実験に取り組んだり、児童生徒へのものづくり意識の高揚、啓発に努めました。

【事業の成果と課題】

○成果

①事業二年目の対象生徒の就職率は100%でした。事業三年目も大型不況で県内有効求人倍率が過去最低の中、十二月末日現在で、就職内定率は九十七%を超えました。

②対象生徒の県内製造業就職率が事業二年目は事業前より、十二%向上しました。

③協力企業、参加生徒数が事業二年目には一年目の二倍増となり、企業連携、生徒のものづくり意識が向上しました。

④旋盤指導力が向上して技能検定合格率が事業二年目には一年目の二倍増となりました。

⑤ものづくり人材育成に関する山梨県内での産学官のコンソーシアムの構築ができました。

○課題

①事業展開の回数増加と協力企業の開拓

②電気系、環境系の企業実習の開発

③実習設備の老朽化と台数の不足への対応

④地元に着着した共同研究の実践

【まとめ】

三年間の取り組みを平成二十一年十一月十九日成果普及発表会としてアイメックにおいて開催しました。その中で「この事業は、ものづくりに関する地域産業の担い手育成ができる教育プログラムになっていると思いますか？」のアンケートの問いに、九十一%の参加者より、「思う」と回答をいただきました。これにより、この取り組みが、山梨県のものづくり人材育成に関する課題解決を先導する教育プログラムになってきたと考えます。

また成果普及発表会のアンケート等より、地域産業を支えるものづくり人材育成について、引き続き強い要望があることもわかりました。

得られた成果を今後は工業系六高等学校全学科で普及を図り、本県製造業の機械系をはじめ電気系、環境系に拡大して、産業人材育成を促進し、地域産業全体へ更なる貢献ができれば幸いと存じます。

地域全体で学校を支援する体制づくりを推進する「やまなし学校応援団育成事業」

— 社会教育課 —

「みんなで支える学校」

みんなで育てる子ども



国では、平成二十年度から、学校を支援するため、学校が必要とする活動について地域の方々をボランティアとして派遣する「学校応援団」(学校支援地域本部)

部の整備を進めています。

県教育委員会では、平成二十一年二月に「やまなしの教育振興プラン」を策定しました。このプランにおいては、「みんなで、子どもを見守りはぐくむ」「地域全体で取り組む教育の推進」を重点施策として位置づけています。そして、具体的な施策の一つとして、地域住民による学校支援体制「学校応援団」の整備に取り組んでいます。

「やまなし学校応援団育成事業」とは

〔ねらい〕

学校・家庭・地域が一体となつて、地域ぐるみで子どもを育てる体制を整える。

〔期待される効果〕

子どもに多様な体験や経験の機会が増えるとともに、教員が教育活動により一層力を注ぐことができる。

・地域の大人が自らの生涯学習の成果を活かす場が拡がり、生きがいづくりとなる。

・学校を核とした地域の絆づくりとなり、地域の教育力が向上する。

〔学校応援団のしくみ〕

①地域コーディネーター

学校と学校支援ボランティア、ボランティア間の連絡調整等を行います。

②学校支援ボランティア

学校を支援する活動を行います。

③地域教育協議会

支援の方針の策定や企画を行います。



「県内における学校応援団」の状況

◇整備されている市町村 十七市町村

・委託事業 八市町村

・独自整備 九市町村

◇学校支援ボランティア活動事例

□学習の支援

・家庭科(ミシンの指導補助)

・環境学習 ・外国語

□部活動の支援

・合唱、吹奏楽 ・球技

□環境整備

・図書室の整備や本の貸出

・読み聞かせ

□安全安心活動

・登下校時の見守り

□学校行事の支援

・田植えの指導

・運動会準備補助



子どもたちに確かな学力を！「確かな学力ステップアップ事業」

— 義務教育課 —

1 事業の目的

この事業は、平成十九年度に取組が始まり、国で実施している「全国学力・学習状況調査」などの結果を、どう受け止め、それをどう改善に活かすかなど、各学校が「確かな学力」の向上に向けた改善サイクルの確立を図れるようにすることを目的としています。

れらを参考に取組むことができるようにしています。

○実践検証校の研究と公開研究会の実施

本事業では、表のとおり県内の五つの地区ごとに、実践検証校を指定し、「確かな学力」の向上に向けた実践的な研究に取り組んできました。

2 事業の内容

○「改善プラン」の作成

この事業では、「全国学力・学習状況調査」の対象となつている国語、算数・数学の二教科と、「山梨県教育課程実施状況調査」で対象としている理科、社会、中学校の外国語（英語）を加えた五教科について、調査結果の分析を行いました。そこから本県の課題を明らかにし、具体的な改善点を「改善プラン」として、提示しています。この「改善プラン」は、大学の先生方の助言も受け、より幅広い視点から作成されています。完成した「改善プラン」は、山梨県総合教育センターのホームページで公開し、市町村教育委員会や各学校が、それぞれの結果の分析や課題の改善に向けて、こ

○「改善プラン」の作成

県は、指定校の要請に応じて指導主事や学識経験者を派遣するなど、研究についての指導助言を行ってきました。この十校は、指定三年目に当たる本年度に、公開研究会を開催し、それぞれの地区を中心に県内各地から多くの先生方が参加することで、研究成果の共有ができました。

表：実践検証校（指定校）一覧

地区	小学校	中学校
中北地区	小淵沢小	白根巨摩中
甲府地区	舞鶴小	西 中
峡東地区	石和西小	笛川中
峡南地区	鰻沢小	鰻沢中
富士・東部地区	忍野小	上野原西中

○「教師力」の向上

本事業では、教員の指導力の向上が図れるよう、これまで「教師力養成講座」や「学力向上シンポジウム」を開催してきました。平成二十一年度のシンポジウムでは、四月に行われた「全国学力・学習状況調査」について、問題の作成にあたった講師を招き、出題の傾向や狙いから、結果の分析にどう取り組めばよいのか確認しました。

3 今後の取組

この事業は、来年度からの二年間を後期として、これまで明らかになった山梨の子どもたちの課題の改善と成果の一層の普及について取り組む予定です。特に、全県的な課題となつている「学習習慣の確立」については、家庭や地域と連携する中で、家庭学習を充実するなど、確かな学力の向上に向けて、取り組んでいきたいと考えています。

発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業グランドモデル地域（甲府市）の取組み

— 新しい学校づくり推進室 —

平成二十年度から文部科学省の委嘱を受け、「発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業」が五年間の予定でスタートし、本年度は二年目を迎えました。この事業は、平成十九年度まで行われてきた「特別支援教育体制推進事業」を継承発展させたもので、発達障害を含む障害のある幼児児童生徒の特別支援教育を総合的に推進するために、全都道府県教育委員会に委嘱して行われている特別支援教育の基幹事業です。

この事業では、広域特別支援連携協議会や地区特別支援教育連携協議会、LD等専門家チーム会議、LD等巡回相談、学生支援員の派遣及び各種研修会の実施が主な取組内容となっています。さらに、これまで県教育委員会が中心となって特別支援教育の体制づくりを推進してきましたが、これからは市町村教育委員会が主体性をもって特別支援教育を推進していくことが求められており、この「発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業」では、グランドモデル地域を指定することでその体制づくりを進めていくことになっています。

そこでグランドモデル地域として甲府市を指定し、就学前の幼児期から就労に至るまでの一貫した支援体制について整備・研究することとしました。具体的には、甲府市教育委員会が主体となり、「発達相談員」の配置、「特別支援連携協議会」、「LD等専門家チーム」、「相談支援ファイル検討委員会」の設置を行いました。具体的な取組の内容は次のとおりです。

「発達相談員の配置」・・・学校（園）からの要請に応じて訪問し、幼児児童生徒を観察し、学校に対して適切な支援方法を助言したり、保護者の就学相談に応じたりするために臨床心理士の資格をもつ者を「発達相談員」として配置しました。地域内の特別支援教育に関する相談機能を充実させるための事業です。週一回の相談業務ですが、巡回相談も含め多くの学校（園）からの依頼があり、大きな成果を上げています。今後、各市町村に発達相談員などの心理職を配置することの有効性が実証されました。

「特別支援連携協議会」・・・教育だけでなく、福祉、保健、医療、労働

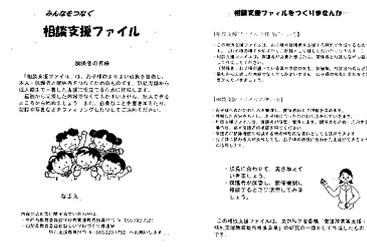
の各機関の委員によって構成し、連携を図るための組織です。年三回の開催で甲府市の特別支援教育に関わる現状や課題の整理を行ってきました。「LD等専門家チーム」・・・学校（園）からの要請により、幼児児童生徒の障害の判断や支援方法の助言を行うものです。構成メンバーは学識経験者、医療機関関係者、心理士、学校関係者等です。今年度、支援検討会を開催したり、委員の代表が学校を訪問して児童生徒の観察を行い、指導方法等について助言したりしました。

「相談支援ファイル」・・・保護者（又は本人）が作成・所持するもので、支援を受けようとする幼児児童生徒の情報をついておき、必要に応じて関係機関に提示して連携するためのツールです。昨年度の取組で内容・規格等を検討し、五百冊作成しました。今年度は内容や配布方法の見直しを行い、活用希望のある保護者に配布しました。甲府市教育委員会にありますので、必要な方はお問い合わせください。（甲府市外の方にも配布しています。）

二年間のグランドモデル地域の取組で、教育委員会だけでなく福祉・保健、医療、労働の各機関の連携が図られるようになってきました。県単位よりも小回りのきく市町村レベルでの取組は効果的です。

今後、この取組の成果が他の市町村に広まり、それぞれの地域で特別支援教育にかかわる関係機関の連携体制が構築され、特別支援教育の支援体制づくりが進められていくことを期待しています。

「相談支援ファイル」のお問い合わせは、甲府市教育委員会（〇五五・二二三・七三二一）又は県教育委員会新しい学校づくり推進室特別支援教育担当（〇五五・二二三・一七五二）までお願いします。



世界遺産アンコールワット展 アジアの大地に咲いた神々の宇宙

— 県立博物館 —

「アンコール遺跡群」は、カンボジア王国にある東南アジア最大の遺跡群で、主な遺跡は六十数カ所にのぼります。これらは、一九九二年に世界文化遺産に登録されましたが、中でも最も有名なものが「アンコール・ワット」でしょう。

本展では、アンコール・ワットの歴史を物語る、六七点の彫像などが出展されています。

□世界遺産の珠玉の名宝

六世紀からクメール民族によって育まれた宗教芸術は、九世紀のアンコール朝において花開き、約六〇〇年にわたり、壮麗な寺院や神仏の像が、多く造られました。

仏教とヒンドゥー教を信仰したクメール民族は、さまざまな種類の彫像を作り出しました。特にヒンドゥー教の神々は、日本では馴染みの薄いもので、象や鷲の頭をした珍しい姿は、多くの方の興味を惹くでしょう。

中でも、「鎮座する閻魔大王ヤママ天」は、三島由紀夫がこの像を見たのをきっかけに戯曲「癩王のテラス」を著わしたことで有名なものです。大きさ一・五メートルの堂々とした姿で、日本初公開となります。

また、このように彫像を作り、寺院に祀ったのは、代々の国王です。今回は、熱烈な仏教徒として数多くの寺院を建立した、ジャヤヴァルマン七世の肖像も展示されます。頭部のみが伝わる像ですが、目を閉じて瞑想するような表情は、王の信

仰心の深さをあらわしているかのようで、印象深いものとなっています。

□「世紀の大発見」クテイ仏

二〇〇一年、遺跡群の一つ、バンテアイ・クテイ寺院で、二七四体もの仏像が発掘され、世界を驚かせました。上智大学の調査団によるこの発見は、アンコール王朝末期の歴史の通説に一石を投じるものであり、また、その数が大変多かったことから「世紀の大発見」と言われたのです。

発掘された仏像は、十一〜十三世紀頃に作られたもので、穏やかな微笑みを浮かべたものが数多くありました。今回、そのうちの十一体が、カンボジア国外で初めて公開されます。およそ八〇〇年ぶりに地上よみがえった「神秘の微笑み」を、ぜひその目でご覧ください。

□人類共通の遺産を、未来へ

アンコール遺跡群は、カンボジアの内戦による破壊や盗掘など、崩壊の危機を乗り越えて現在に伝えられています。背景には、世界中の人々による地道な支援活動がありました。現在、山梨県では、富士山の世界文化遺産登録にむけて、さまざまな活動が行われています。人類共通の遺産を後世に守り伝えていくことがいかに尊いことか、アンコールの彫像たちは、そうしたメッセージも私たちに伝えているような気がしてなりません。

会 期 平成二十二年二月四日(木)〜三月二十二日(月)

観覧料

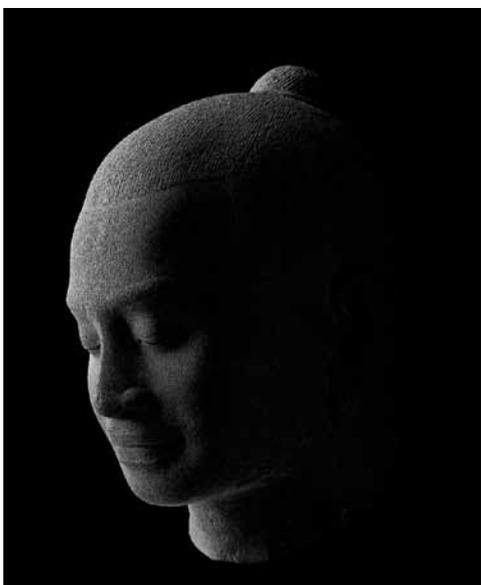
一般 一〇〇〇(八四〇)円
 高校・大学生 五〇〇(四二〇)円
 小・中学生 二六〇(二一〇)円

()内は二十名以上の団体料金、県内宿泊者割引料金

小・中・高等・特別支援学校生は土曜日無料

県内六十五歳以上の方(健康保険証等持参)は無料

障害者手帳をご持参の場合、ご本人と介護の方一名無料



写真：ジャヤヴァルマン7世の尊顔
 (プノンペン国立博物館蔵)

平成21年度新体力テスト・健康実態調査結果の概要

— スポーツ健康課 —

県教育委員会では、児童生徒の健康・体力の向上と、体育・スポーツ活動の指導上の基礎資料として活用することを目的に、平成 17 年度から県内全公立小・中・高等学校児童生徒を対象にした「新体力テスト・健康実態調査」を実施しています。一昨年度から調査結果の分析・考察を山梨大学（保健体育講座・生涯スポーツ健康科学コース）に委託しており、本年度の調査結果がまとまりましたので、その概要をお知らせします。

1 調査の概要

(1) 調査内容 新体力テスト（8 種目）
健康実態調査（10 項目）

(2) 実施時期 平成 21 年 4 月～7 月

(3) 実施率 100%

※県内全ての公立小(199 校)・中(92 校)・高(全日 32 校、定時 8 校)で実施

(4) 実施人数 93,586 人

2 調査結果の概要

(1) 体力・運動能力の実態

共通 3 種目（握力・50m 走・ボール投げ）について過去からのデータを分析すると、昭和 50 年代をピークに低下傾向が見られましたが、本調査を開始した平成 17 年頃を境にほぼ横ばい傾向を示すなかで、改善傾向にある年代・測定項目もあれば、反対に低下傾向を示す測定項目も見られます。しかし、それらの数値が微増・微減であることから本県における児童生徒の体力低下にある程度の歯止めがかかったといえます。

体力合計点の平均値は、平成 17 年度以降改善が見られてはいますが、依然全国と比較すると低い水準にあります。各測定項目別に見ますと、本県児童生徒の体力・運動能力の特徴として、筋力・柔軟性といった体力要素と比較して、走・跳・投など技術や身体操作性が求められる運動能力が低い傾向が見られます。

総合評価から体力の傾向を見ますと、平成 17 年度から優れている A・B 評価の割合が増加し、劣っている D・E 評価の割合が減少しており、男女とも改善傾向が見られます。

(2) 健康実態調査における生活習慣と体力の傾向

平成 17 年度からの推移を見ますと、全体的に改善傾向が見られました。特に中学校・高等学校の改善率が高いのですが、小学校低学年においては生活習慣の顕著な低下傾向が見られました。

運動習慣については、男女ともに中学校期を境に「運動をしない」傾向が高まり、特に女子の「運動をしない」傾向は男子より早く訪れます。男女ともに運動の実施頻度と体力の間には比例関係が見られました。

朝食摂取については、男女ともに 12 歳以降「毎日食べる」割合が低下傾向にあり、「毎日食べない」割合が増加傾向にあります。「毎日食べる」児童生徒の体力は高い傾向にあります。

睡眠時間については、男女ともに加齢に伴い短くなります。体力との関係は、小学校期では 6 時間未満の児童の体力数値は低い傾向が見られましたが、高等学校期になるとむしろ 8 時間以上の生徒の体力数値が低い傾向が見られました。

3 今後の課題

調査開始から 5 年間で全体的な改善傾向は見られています。しかし、基礎的な体力要素と比較し、身体操作性の運動能力に課題があります。従って各学校では、遊びや運動の質に視点を向け、ボールや道具などの操作や身のこなしが育まれるような運動に意図的に取り組む必要があります。

また、小学校低学年からの健康的な生活習慣の確立に向けた継続的な取組をするとともに、運動習慣や生活習慣の差による体力の二極化が見られることから、運動をしない児童生徒や、運動の苦手な児童生徒への積極的な働きかけが必要です。



ミュージアム甲斐・ネットワーク

～県内博物館等の連携による活動の活性化と利用者サービス向上を目指して～

— 学術文化財課 —

県内の美術館、博物館等が、相互に連携して活性化を図り、活動の充実や利用者へのサービスの向上を目指す「ミュージアム甲斐・ネットワーク」会員施設を紹介します。

大月市郷土資料館 (大月市)

郷土の歴史・民俗・自然などに関する資料を収集・保管・研究しその成果を展示することにより、市民が郷土を知り、郷土の未来を考えて行くための施設として開館しました。

企画展示室には、大月市が選定した「富嶽十二景」の山々から郷土出身の山岳写真家である白旗史朗氏が撮影した富士山の写真を「秀麗富嶽十二景写真展」として展示しております。

常設展示室は、9つのコーナーに分け、大月の歴史・民俗・自然等について展示、解説を行っています。

特別展示室においては、木食白道写真展を開催中です。目の

前には桂川があり、徒歩10分程度で日本三大奇橋の一つで、昭和7年に国の名勝として指定を受けた「猿橋」を訪ねることができます。

住 所 大月市猿橋町猿橋 313-2

電話番号 0554-23-1511

休 館 日 月曜日、祝日の翌日

入 館 料 一般100円(高校・大学生含む)

小中学生無料(20名以上の団体2割引)

駐 車 場 大型バス3台、普通車10台、無料



甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 (身延町)

我が国における代表的な戦国期金山「国指定史跡・湯之奥金山中山金山」のガイダンス館。館内は、遺跡への山道を登っていくような作りで、映像シアター、ジオラマ模型展示室、資料展示室で構成され、戦国期鉱山作業とそこに暮らした人々「金山衆」の生活の様子をわかりやすく紹介しています。さらに鉱山作業のひとつ「汰り分け」を実体験できる「砂金採り体験室」が併設されており、まさに学んで楽しむことの出来る博物館です。また、こども金山探検隊や砂金掘り大会、遺跡見学会、公開講座など、年間を通じて大人から子どもまで、それぞれが楽しめる様々な事業を展開しており、金山の専門館として、生涯学習の場として、身延町の観光拠点として様々な役割を担っています。

住 所 南巨摩郡身延町上之平 1787 番地先

電話番号 0556-36-0015

休 館 日 水曜日(祝日の場合はその翌日)

12月28日～翌年1月1日

入 館 料

入館料	大人	中学生	小学生	幼児
展示観覧	500円	400円	300円	無 料
砂金採り体験	600円	500円	400円	400円
観覧・体験共通	1000円	800円	600円	400円

20名様以上の団体は10%引きになります。

駐 車 場 大型バス3台、普通車29台、無料

http://www.town.minobu.lg.jp/local_minobu/kinzan/index.html



博物館



ジオラマ



砂金採り体験



「信州生活」
千野 政寿

訳あって信州は伊那谷の住人となり2年が経とうとしている。名物のソースカツ丼やローメンにもすっかり慣れ「うまい」と思うようになった。

さて、その訳とは、山梨県と長野県との人事交流研修である。教員同士を2年間交換し、互いの県のよい所を学び合おうというのが趣旨である。私が派遣されたのは伊那市の伊那北高校だ。旧制伊那中学の流れをくむ進学校である。まず驚いたことは、いわゆる職員室がないことだ。各教科に研究室があり、みんなそこにいる。国語には国語研究室（略して国研）、社会には社会科研究室（社研）といった具合だ。では、教頭はどこにいるのか。「教務室」なる部屋があり、教頭・教務主任・教務係の一人（わたし）、それから教務助手の方がいる。だから職員会議でもない、全員の顔をみる機会はない。

職員会議にもカルチャーショックを受けた。回数も平均して月に3回と多く、会議中に大勢が発言をするのだ。時には激しい論争になる。3時間議論しても結論が出ず、投票に持ち込まれたことさえある。啞然とする私に、英語の1先生が説明してくれた。

「信州人は冬、野沢菜漬けをつまみながら徹底して議論する習慣があり、それがここにも生きているのさ」。信州と甲州、山一つ隔てると別世界である。

(県立北杜高等学校)

らくがき



「故郷（ふるさと）」
渡邊 真奈美

「うさぎ追いし かの山 小ぶなつりし かの川」
この歌詞は「ふるさと」の歌い始めです。長野県で生まれ育ち上京していた高野辰之さんが、故郷の情景を思い、詩に表現したそうです。恥ずかしながら、私は日本のどこの様子なのか、地域のコーラスサークルで最近知りました。

私が、このコーラスサークルに参加するようになったきっかけは、歌の大好きな卒業生と一緒に見学に行ったことでした。最初の頃、卒業生のことが心配で、一緒に男性パートで歌っていました。けれども、私はいつしかアルトパートで気持ちよく歌うようになってしまいました。

サークルには色々な職種の方や、10代から60代と幅広い年齢層の方が30人程いらっしゃいます。各パートで練習した後、全員で声を合わせて歌います。皆、一生懸命歌っているのですが、指導の先生から「もっと周りの声を聴いて」と注意されます。この曲には、伴奏がないので、周りの人の声を頼りに歌うのです。練習するうちに皆の声が融け合い、響きが重なり合っていきます。曲が終わった瞬間に、身震いがしました。傍らにあったドラムも、私たちの歌声に感動しているかのように振動していました。

ふと卒業生の方を見ると、以前はただ声を張り上げているだけの歌い方だったのですが、周りの方々の声と見事に調和し、素敵なハーモニーを醸し出していました。

こんな素敵な場所が、我が「ふるさと」にもあったことを改めて感じる今日この頃です。

(県立ふじざくら支援学校)

春の企画展「山崎方代展 右左口はわが帰る村」
平成22年5月1日(土)～6月27日(日) 県立文学館

県立文学館では、歿後25年を迎える、東八代郡村(現・甲府市)生まれの歌人山崎(1914～1985)の企画展を開催します。

方代は、少年期に地元青年団活動の中で短歌を始めましたが、1938年、母を亡くし病身の父と共に横浜に住む姉を頼って故郷を離れました。1941年に召集され、南方戦線で右眼を失明、左目も視力の大半を失ってしまいます。復員後、放浪生活を経て、横浜・鎌倉に暮らしてからも故郷を見つめつけました。

ふるさとの 右左口郷は 骨壺の

底にゆられて わがかえる村『こおろぎ』収録
不二が笑っている 石が笑っている

笛吹川がつぶやいている 『迦葉』収録
1975年に雑誌『短歌』の第1回愛読者賞を受賞し、

歌壇における評価が定まります。

茶碗の底に 梅干の種 二つ並びおる
ああこれが愛と云うものだ 『方代』収録
手のひらに 豆腐をのせて いそいそと
いつもの角を 曲りて帰る 『右左口』収録

口語調の平易な文体と明るい哀調を帯びた歌の世界には、戦争で傷ついた魂、故郷思慕など複雑な情がこめられています。

本展では直筆の書、歌稿、写真、愛用品など約150点の資料により、方代の歌の世界とその生涯をご覧ください。



山崎方代 撮影 坂本徳一

やさしく かしく たくましく

～特色ある学校づくりを通して～ 北杜市立白州小学校

本校は、霊峰甲斐駒ヶ岳が間近に迫る、きれいな水と空気、豊かな自然と人情にあふれる環境に囲まれた全校児童 168 名の学校です。

「やさしく かしく たくましく」を学校教育目標に、豊かな地域環境を活かした特色ある学校づくりに取り組んでいます。

◇「わんぱく大行進」(6月19日)

22回目を迎えた「わんぱく大行進」で、今年も全校児童が縦割り班ごとに、一日かけて地域を歩きながら、町内の自然や歴史及び諸施設について学習しました。課題をもって野外活動を行うことにより、自分たちの生活する地域への理解を一層深めることができました。また、縦割り班での活動を

通して、異年齢集団での活動の楽しさやお互いに協力することの大切さを学ぶことができました。

◇「尾白っ子学習発表会」(11月7日)

毎年秋、これまで各教科で学習したことをもとに、学年ごとに劇や歌、朗読など表現方法を工夫して発表し合う「尾白っ子学習発表会」を行っています。文化的活動への取組を通して、児童の創造性や協力する気持ち、伝え合う力などを育てています。

これらの特色ある学校づくりを通して「やさしく かしく たくましく」、知・徳・体のバランスの取れた子どもたちの育成を目指しています。



初夏の「わんぱく大行進」



秋の「尾白っ子学習発表会」

「輝く農林」、「誇れ農林」をめざして

県立農林高等学校

本校では、創立以来「誠実の人となれ」の校訓のもと、校歌の一節にある「輝く農林」、「誇れ農林」を目指して特色ある教育に取り組んでいます。

本年度は、卒業100周年を迎える浅川巧氏を題材に記念事業を実施する中で、山梨英和大学助教の李尚珍(イサンジン)先生や、氏の生き方を描いた『白磁の人』の著者、江宮隆之氏の講演会を開催しました。

生徒達からは「農林高校で学ぶことを誇りに思う」、「思いやりを持ちたい」、「しっかり生きたい」などと書かれた感想文が多数寄せられ、事業の成果を確信しました。

さらに保護者、同窓会、教職員に呼びかけ、氏の足跡を訪ねる韓国の旅を実現し、改めてその生き方に感銘を受けました。

部活動では、男子陸上部が昨年度に引き続き山梨県高等学校駅伝競走大会で優勝しました。

また、不況で就職求人数は減ったものの、日ごろのインターンシップやデュアルシステムの充実が功を奏し、ほとんどの生徒が例年どおりに内定を受けました。

今後も本校の特色をさらに活かした教育を教職員一丸となって進めて行こうと意気込んでいます。



2年連続駅伝競走大会で優勝



フランス式庭園・正面玄関

学校に寄り添い支援する研究を目指して

— 総合教育センター 研究開発部 —

山梨県総合教育センターは、学校の現状に即した今日的な教育課題を把握し、その課題解決のための調査・研究や指導計画・指導方法の研究・開発に努めています。

特に、調査・研究は、研修主事による具体的な実践研究として実施しています。

□本年度の研修主事による研究概要

「生きる力をはぐくむ実践的な研究」を統一テーマとして、新学習指導要領移行期における課題、「やまなしの教育振興プラン」、学校における喫緊の教育課題等を踏まえ、次の九つの研究課題を挙げて十七の個別研究に取り組みました。

- ① 言語活動の充実
 - ・「音楽のよさを感じ取り、思いや意図をもって表現する力の育成を目指した指導法の研究」(小学校)
 - ・「豊かに感じ表現する図画工作科の指導方法の在り方」(小学校)
 - ・「高等学校国語科における言語能力の基盤の育成」(高等学校)
 - ・「学習意欲を高める言語活動の在り方」(高等学校・英語科)
- ② 伝統と文化に関する教育の充実
 - ・「伝統と文化を尊重する態度を育てる研究」(小・中学校・高等学校)
 - ・「生活への感性をはぐくむ伝統的な食文化の学習」(中学校・家庭科)
- ③ 道徳教育の充実
 - ・「つながる力をはぐくむ効果的な道徳教育の探求」(小学校)
- ④ 学校における情報モラル教育
 - ・「情報モラル教育の充実に関する研究」(小学校・総合的な学習の時間)
 - ・「高等学校・商業科、工業科」(高等学校・道徳)
- ⑤ 不登校問題
 - ・「※統一テーマのもと四つの個別研究」
 - ・「不登校問題の理解を深め、有効な対応を探る研究 — 面接相談記録の整理を通して —」
- ⑥ 暴力やいじめの予防
 - ・「学校で暴力やいじめの予防を行うための研究 PART3」
- ⑦ 特別な教育的支援
 - ・「特別支援教育における実際的な研究 — 通常の学級に在籍し、特別な支援を必要とする児童生徒への教育的支援の在り方 —」
- ⑧ 理科教育の充実
 - ・「理科教育の充実・活性化を支援するための研究」(高等学校)
- ⑨ 小学校外国語活動の充実
 - ・「小学校外国語活動におけるコミュニケーションへの関心・意欲を高める活動の研究」
 - ・「関心・意欲を喚起する外国語活動の在り方」

これらの研究を行うに当たっては、研究協力校及び研究協力員、山梨大学附属教育総合実践センターに多大な御支援をいただき、二月の「研究発表大会」において、各研究結果を発表することができました。

なおこの発表についてはCDに記録し、四月当初に各小・中・高等学校及び特別支援学校に配付するとともにセンターホームページにも掲載いたしますのでご利用ください。



研究発表大会風景

本センターにおいても、これらの研究成果を、研修会や各校内研究会への訪問支援事業等において活用していく予定です。

新委員長に 須田 清氏が就任

県教育委員会では、古屋知子委員長の任期満了に伴い、後任の第七十二代委員長に須田清氏を選任しました。新委員長の任期は平成二十一年十二月二十一日から平成二十二年十月十二日までです。



新委員長
須田 清

昨年、国政において政権交代という大きな変化が生じ、今後の教育関連の施策がどのように展開していくのか、県民の関心も前にも増して高まりを見せているように思います。

一方、県内の学校現場では、いじめ・不登校、問題行動等、学校関係者の懸命な努力にも拘わらず依然として深刻な状態が続いています。

県教育委員会では、昨年二月に教育の一層の振興を図るため、五か年計画で「やまなしの教育振興プラン」を、次いで十月には向こう十年を見据えて魅力ある高校づくりを推進するための「県立高等学校整備基本構想」を策定し、それぞれ取り組みを始めました。また、学校の活性化を図り、子どもたちの豊かな学びを保障するために、副校長と主幹教諭という新しい職も本年四月から順次配置してまいります。これらの施策により学校の諸課題が解決に向かうことを期待しています。

現在は厳しい社会・経済情勢下ではありますが、県民・保護者・教職員の切実な要望に真摯に耳を傾け、その期待に応えられるよう取り組み、委員長としての職責を果たしていきたいと思っております。

『レファレンスの道宝箱…テーマ別調べ方ガイド』

◇ 山梨の地図について調べる ◇

山梨県立図書館

図書から調べる

山梨県の歴史関係の資料、各市町村誌や郡誌などの各地域の資料、統計書などには地図が掲載されている場合が多いので古い地図などが見たい場合は要チェックです。

住宅地図は1970年代から所蔵していますが、年によっては欠けている場合もあります。甲府市の場合は1960年代のものや、1923年と1937年の地籍図があります。地籍図には世帯主名などは記載されていません。

そのほか、「地質図」や「方言分布図」など特殊な地図は、『山梨県地質誌』（山梨県 1970）、『山梨県言語地図集』（専修大学出版局 1988）といったそれぞれの分野の資料に掲載されています。

インターネットの資料検索を活用して調べる

当館ホームページの「資料の検索はこちら」から「県立図書館の蔵書検索」をクリックし、検索画面を開いたら「キーワード」の部分で「書名」や「全項目」に設定し、「地形図」、「住宅地図」や「地域名」などを入力して検索してみてください。一枚ものの地図を確認したい場合は、検索画面下のオプションの「ジャンル」→「地図」→「県全体図」または「県地域図」を設定し「検索」をクリックすると全点の一覧がでます。入力してから検索をすると絞り込むこともできます。

* 山梨県立図書館ホームページアドレス：<http://www.lib.pref.yamanashi.jp/tosyokan/index.php>

江戸時代の山梨県の絵図が見たい

江戸時代の絵図の原本は県立図書館では所蔵していません（県立博物館に移管しました）。県立図書館では「文政十三年甲斐国絵図」など数点の複製品や『国絵図・郡絵図・村絵図』（富士吉田市歴史民俗博物館 2004）や『県指定史跡 甲府城跡 下巻』（山梨県 2005）といった歴史関連の資料や各市町村誌の中で紹介されているものが見られます。また、甲州文庫の絵図や地図はマイクロフィルムで見ることができます。

山梨の文化財

県指定有形文化財（建造物）

山梨県庁舎別館（旧本館） 及び 県議会議事堂 二棟

（平成二十一年十二月二十四日指定）

山梨県庁舎別館（旧本館）及び県議会議事堂は、鉄筋コンクリート造で昭和五年に完成した建物で、県内に残る数少ない公共建築物の一つである。建物の意匠は、在来にはみられないアール・デコ様式（一九一〇年代から一九三〇年代にかけてフランスを中心にヨーロッパで流行した装飾様式で直線と立体を多用した装飾が特徴）で、単純であるが重厚な外観と静かな内部空間となっている。

県庁舎別館の平面形が山の字を型取り、軒瓦の瓦頭の紋様とともに郷土性を表わしている。建築は、東京帝国大学教授で、当時の構造設計の第一人者であり、日本の建築構造学の基礎を築いたといわれる建築学者佐野利器が顧問として加わり、指導を受ける中で行われた。

建物内外に使用した花崗岩は塩山産で、マントルピースや階段ホールの独立柱など内装に使用した大理石は道志村で産出されたものである。このように現在ではみられない県内産の資材を使用した意義は大きい。

また、内部では、玄関、各階の階段ホール内部、階段などに三種類の模様の大理石を貼り分けるなど意匠を凝らしたり、重厚な装飾が施されるなど、当時の形式や装飾が偲ばれるものとなっている。

県庁舎別館及び県議会議事堂は、公共建築として明治期、大正期の木造、煉瓦造、昭和期の鉄筋コンクリート造と外観・構造・意匠・機能性とともに大きく進歩する好例として、貴重な存在となっている。



山梨県庁舎別館（旧本館）



山梨県議会議事堂



別館1階階段ホール（旧本館）

主な行事予定

県埋蔵文化財センター

■企画展（会場 県立考古博物館）
「山梨の遺跡展2010」 3/13～4/12

■特別展（会場 甲府城稲荷櫓）
「昔覚ゆる甲府城」
「築城技術と甲州石工文化」 4/9～4/18

県立美術館

■特別展
「愛のヴィクトリアン・ジュエリー展」
華麗なる英国のライフスタイル 4/10～6/6

県立博物館

■開館5周年記念特別展
「チンギス・ハーンとモンゴルの至宝展」
「大帝国を築いた英雄たちの華麗なる遺産」 4/17～5/31

県立考古博物館

■企画展（会場 県立考古博物館多目的室）
「古代のアクセサリー」 4/24～6/27

県立文学館

■企画展
「山崎方代展 右左口はわが帰る村」 5/15～6/27

表紙を飾る



作品タイトル

「幻想綺譚（げんそうきたん）」

和装に見られる籠に花を盛り込んだ文様には古代中国から伝わるいわれがあり、花籠が美しい仙女を象徴して、着物の文様に使われるようになりました。私は日本の伝統的な着物の文様や、細かい作業が好きなので今回この題材を選びました。

先生方や友人や両親、沢山の人の協力や応援があってこそできた作品です。少しでも「良いな」と思って頂けると嬉しいです。
指導者 岡田昭夫教諭、笹本要教諭

「声かけ あいさつ」 みんなで実践 !!

◆教育に関する疑問、質問等がありましたらお気軽に E-mail 又は FAX して下さい。
アドレス：kyouikusom@pref.yamanashi.lg.jp FAX：055 - 223 - 1744

◆教育やまなしのバックナンバーがインターネットでご覧いただけます。

URL：http://www.pref.yamanashi.jp/kyouiku/46150769857.html